

2012(平成24)年 3月31日

第12号

●発行 宕芸高田市高宮町
下佐振興会
●編集 広 報 部

人 口……356人
世帯数……144世帯



ふれあいの里 しもさ



毛利隆元逝去の地佐々部上式敷 (文化遺産市指定)

とくにして毛利隆元急死せる湯灌の岩ぞ夏草の中
雲州の父急援の途次にして隆元果てしこれぞ灰塚
灰塚と湯灌の岩のひっそりとああ隆元の悲憤を思ふ

(荒木増雄 晩鐘)

助け合う下佐を目指して



下佐振興会会長 菊野 正之

会員の皆様には、昨年は下佐振興会の活動に力強いご協力を賜り心からお礼申し上げます。

し上げます。二十四年度も一層のご支援をお願い致します。

さて、振り返って見ますと、昨年ほど日本列島各地で災害の多かつた年はありません。しかも大きな災害です。

東日本の大震災、大津波そして、原発事故による放射能漏れ、また各地での豪雨・大洪水・土砂災害、夏の未曾有の大猛暑、秋長雨。日本列島の地軸に異変を感じる一年でありました。幸いに本地域におきましては災害はありませんでしたが、災害は何時何処へどのような形で襲ってくるか判りません。日本列島どこも安全と言い切れる所はありません。

常日頃から災害に備えてこころの準備、隣近所との連携、避難経路や避難場所の確認、非常物品の用意等しておかなければいけません。下佐振興会では、昨年自主防災組織を立ち上げて万々に備えています。組織の立ち上げだけでは到底災害には立ち向かわれません。隣近所、集落が連携し、個々が自分の役割を自覚し、一丸となって対処しなければならぬと思います。そのためには、日頃から隣近所の交流をよくし、お互いの絆を深めておくことが最も大事なことです。

下佐振興会は、今年このことを目標に色々な行事を通して頑張りたいと思います。皆さまのご協力をお願い致します。

びらりしもさの里 探

地域自慢の文化財・交通・神社仏閣・特産物



唐香橋

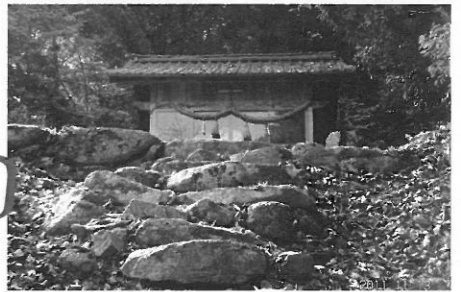
所木～唐香は戦時中渡守がおらず、綱渡りで往来していた。その後吊橋が完成したが豪雨で流出し、現在の橋が完成した。

JR三江線 所木駅



所木駅

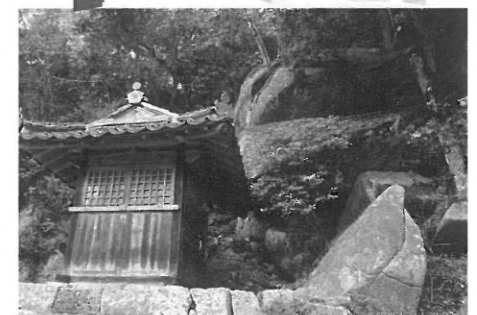
所木



日吉神社

八幡神社

野部観音



◇野部の安産習俗◇
「野部観音」古来安産の菩薩として知られ、近郷を中心に広く信仰を集め、遠くからの参拝者もありにぎわったという。

昭和五十年八月三十一日三江線百九・六キロメートルが開通した。三江線建設案が国会を通過したのは大正九年島根県側から着工三江線とよばれた。それに対して遅れに遅れ、昭和十一年十日市式敷駅間着工。昭和三十年三月三十一日、三江線十四・七キロメートルが開通した。
国鉄の赤字路線が問題化し、北線は廃止、南線のレールは取り上げられそうになったが、関係町村の猛烈な運動によって南線が完成した。その後口羽まで開通したのが三十八年六月三十日であった。
(高宮町史)

信木駅



JR三江線 信木駅

信木



日吉神社



ササベの柿の木

樹木 12m
幹周 2.3m
指定 県



八幡神社

野部



野部神社のご神体は室町時代中期のものと考えられ、神仏混合のご神体であり、県北で唯一の非常に珍しい、貴重なものだそうです。明治初期、神仏分離令により神社にあった仏像はこわされたが野部神社のものはなぜかのこっており不思議です。
(荒木氏資料)

クスノキ 枝張り 20m
幹周 3.11m
指定 市



十年前そばの会を発足した。休耕田を利用して、そばの栽培を行っています。
大地のまつりには杵そば餅、産直市でのそば粉の販売、そば打ちなど産地の特産物として定着。

上式敷

式敷大橋

式敷～淀は川舟による横渡しで往来していたが唐香橋に続き、式敷にも吊橋が完成その後度重なる豪雨災害で二度流失、現在の式敷大橋が完成した。



金屋子
かないご

下式敷

JR三江線 式敷駅
下式敷大谷春夫氏宅敷地に小さなお堂がある。たたら製鉄の守り神様で大昔天から地上に降りてきた金屋子(かないご)という女の神様である。ご神体も鮮やかな口紅をさしておられる。
【荒木氏資料】

県道4

式敷駅



JR三江線 式敷駅

三田谷

荒神社



岡原家の下の細い道を登ると神社が祀られている。



金屋子
かないご

三田谷峠を進むと右側にお堂がある。金屋子(かないご)たたら製鉄の守り神さま。

佐々部のかや

樹高 25m
幹周 3.71m
指定 市



蓮照寺



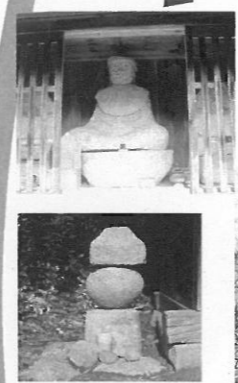
寛文10年(1670)現在地に建造され、以来三百二十余年を経ている。後鳥羽院御座木像と後鳥羽院御位牌が現在保管されている。

名倉権現社



天文5年9月尼子晴久は大挙して毛利を攻め吉田の郡山城を包囲したが、その途中名倉権現に戦勝を祈願結果は大敗北、失意と立腹か権現さんのご神体を池に投げ捨てて逃げ帰ったとの話。土中にうもれて四世紀、神の鏡は再び姿を現したのである。
(荒木氏資料)

野部の地藏尊



みやずるの墓



クスノキ

枝張り 20m
幹周 3.11m
指定 市

八幡神社



大仙神社

昭和61年和佐田にあった三神さんと大仙さんを八幡さんの境内へ移転した。
(荒木氏資料)



下佐コミュニティセンター

◇毛利隆元逝去の地
隆元は尼子討伐に雲州に向かっている父元就を助けるため、永禄六年(1565)七月一日吉田を襲って、父元就の陣に突入し、海軍して兵士を撃退し、八月五日に出雲に赴く予定であったが、三日和智誠春の供応を受け宿舎蓮華寺に帰って急病を發し四日の弘暁四十一歳の若さで逝去した遺体はここで火葬され、その後建られたのが、隆元の墓と呼ばれるこの石碑である。
(荒木氏資料)

毛利隆元逝去の地
隆元は尼子討伐に雲州に向かっている父元就を助けるため、永禄六年(1565)七月一日吉田を襲って、父元就の陣に突入し、海軍して兵士を撃退し、八月五日に出雲に赴く予定であったが、三日和智誠春の供応を受け宿舎蓮華寺に帰って急病を發し四日の弘暁四十一歳の若さで逝去した遺体はここで火葬され、その後建られたのが、隆元の墓と呼ばれるこの石碑である。
(荒木氏資料)

平成23年度 下佐農民祭

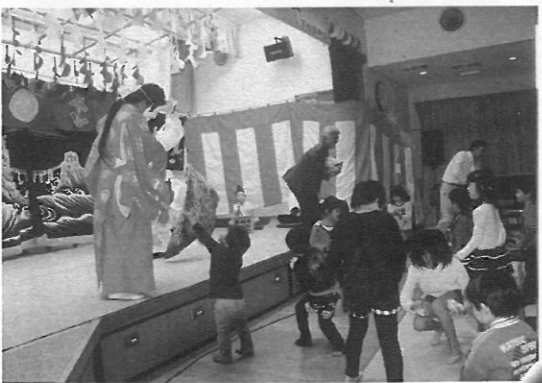
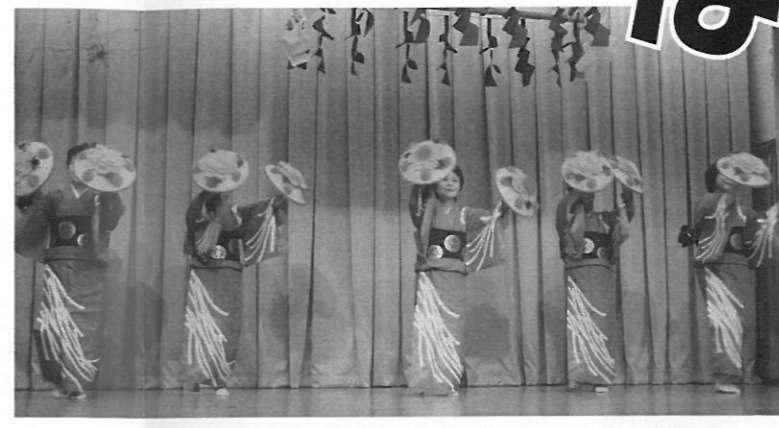
平成23年 11月20日

はしかおとし



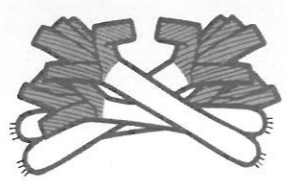
お日様明るい下佐の段々畑 佐々木知江

太くて目立つ大根は お父さん
わたくしは ほろこきみたい
かわいいハイハイトマト
見事な発育 お母さんキャベツ
引っ張りだこの家族のキッチン
せわせわわのトマトロコシはお兄さん
茶髪でスマート・イケメン育ち
好きよ好きよと手を伸ばしても ああ届かない
待ってていました手ひろに 紅色ほんのりのお姉さん
こころん笑顔ガのそいたみ
草きしほいにぶらさがる
スリルカほちはあひいせと
柵にからきりランラン遊びの
おはあせむキョウ
笑っちゃいまぬみ
かほちやガタ立にあっただとせ
おかい おかい ワッハッハ ウッフッフ
段々畑にぎやか畑 家族がぎよった下佐の畑



はしかおとし
秋の収穫作業は、稲刈り・はで干し・稲こぎ・とうすひき・米の出荷と続きます。はしかおとしは、稲こぎやとうすひきの時にできるほりこり。体にもぐれついてくるほりこり「はしかおとし、はしかおとし」と言っている人は、はしかをいやがります。収穫が終わるとはしかとお別れです。秋の農作業が終わり、十月中旬毎年下佐地域の農民祭が行われます。自慢の野菜・果物・わら細工・写真・編み物・その他の創作物を出品して、踊りや神楽や演劇など楽しむ農民祭が「はしかおとし」と命名され、下佐振興会の一大イベントとなっています。出品された農産物は、競りにかけられ、振興会の収益となつてまた地域へ還元されていきます。春は田植えの終わりの、「泥落とし」に相対して、秋の「はしかおとし」とは、遊び心と豊作を祝つての命名となつたのでしよう。(いったいどなたのアイデアかな?) 下佐振興会は、役員さんや地域の方々の絆があつてこそ延々と楽しい行事が続いています。

展示作品



トントンカラリンのとなり組



平成23年度下佐振興会は、皆さまのお陰で沢山の行事を無事終えることができました。24年度も引き続きよろしくお願いいたします。

下式敷サロン

世話人 平田 誠也

おめでとうございます。本年もよろしくお願ひします。

おめでとくと発する第一声は新たな気持ちで今年も頑張ろうと素直に思えることが不思議だ。新年の清々しさはだれしも味あわれた事とおもう。三々五々集まって三十名の参加で盛り上がったサロン見えないところのつながりで大きな力を感じる。

挨拶、報告が終わわり、会食となり、暖かい豚汁ならぬボタン鍋風なインシシ汁に舌鼓を打つ。それぞれの会話が花が咲きご神酒を頂いて酒宴となり、カマオケ、睡る人あり、と笑い声の絶えなかった三時間。高齢化の進む小さな集落ですが、こうしてふれあい、団結していく事の大切さを感じている。(三月三日、第二回目のサロン春野菜の栽培を研修しました。)



野部サロン

世話人 菊野 正之

野部のサロンは、ソウメン流しと正月飾りづくりを恒例行事としていますが、去年は、防寒着の「ねこ」作りと、「肩たたき」作りのサロンを六回おこないました。

ソウメン流しのサロンや正月飾り作りのサロンでは、女性の手作り料理が用意され、酒も加わり素人芸人の飛び入りやカラオケ、ゲームでシワが伸びるほど楽しいひと時を過ごしました。また「ねこ」作りでは、早速この冬着込んでぬくぬく……と。孫のお菓子に変身したものも有るようです。



信木・所木サロン

信木・所木活性化組合 世話人 竹谷 義行

今年も夏は灯籠作り、冬は注連縄作りを予定どおりで行いました。年行事の中に新たに、「男の料理」というのを決めて、一汁三菜を基本として、当日パック詰めにして出席者一同で食事をいたしました。

組合活性を続ける以上出来るだけ全員の参加がほしいと思ひます。平成二十四年に期待して頑張ります。



上式敷サロン

世話人 石井 勉

ふれあいサロンについて話し合いの結果、「締め飾り」をつくらうということになりました。当初は安易に考えていましたが、老人会で指導されている岡田正義さんに相談し、準備をしていきました。当日になり、どうなることかと思っておりましたが、皆さまのお陰で、縄だけの飾りが上式敷全戸分出来安心しました。日を改め飾り付けを十二月二十六日に、また集まって頂き無事完成したのを見て「うん、うん」と思ったものです。完成品を地区役員の方々に戸数分を持って帰ってもらい配布しました。

地区の皆様、指導頂いた岡田正義さん、役員の方々の協力のお陰と感謝いたします。ありがとうございます。又よろしくお願ひします。



おくやみと 篤志のお礼

「遺族様におくやみ申し上げますと共に、ご寄付を頂きまして厚くお礼申し上げます。菅 中 好 男さん(91才) 田 中 ミサ子さん(95才) 石 崎 満寿男さん(80才)

男性料理教室



「人参グループ」では、男性料理教室を下佐コミュニティセンターで行いました。

多くの方に参加して頂き、男性の方も調理実習に関心があるのだとおもいました。

調理が始まると「人参はどがなに切るんのか」とか「肉の炒め具合はこれくらいかのお」

また、手のあいた方は器を用意されたり、久しぶりにあわれたのでしよう、話はずみ和気あいあいの調理時間でした。

予定より早く料理が出来て、早めの昼食となりました。

河内 和子

「自分の家の味もこの位かのお」とか「家のは味がからいかのお」とか「今までは我が家でテーブルに出たおかずを美味しく食べていたけど色々料理をすることは大変じゃの」と話された方もありました。

「人参グループ」の活動は減塩食とか高血圧予防の食事・血液サラサラの食事・カルシウムのとれる食事と地域の方が元気で過ごしてもらえよう少しでもお手伝いが出来たらとの思いでほそぼそと活動しております。

お気軽にお声をかけて下さい。各集落へ行かせて頂き、地域のみなさまと一緒に調理実習や保健士さん栄養士さんのお話しを聞き食生活改善活動をさせてもらえたらと思ひます。

「人参グループ」からも声をかけさせて頂きます。又、ヘルスメイト(一緒に活動してくださる方)さんが一人でも多く増えて下さることをねがっています。よろしくお願ひ致します。

生涯現役の姿は花木

(八重桜と紫陽花)

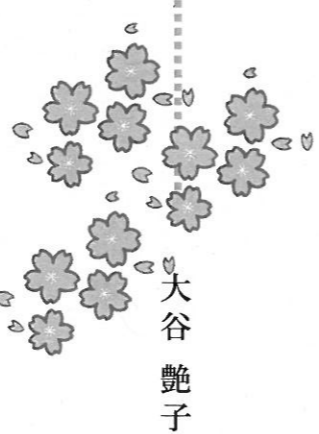
「土砂に埋もれて、このままでは枯れてしまいそうな紫陽花の株を哀れに思い、貰い受けた一本から始まったお話しです。」

皆さまに「綺麗ね」と言ってお目を楽しませてくれている花達が私達に命、活力を与えてくれていると思ひます。「生涯現役は花木が主役」と思っております。

紫陽花の挿木は実に良くついてくれ、面白い位殖えてきて、今では百五十株位にはなつたと思ひます。それも痩せた土地だから荒らしてしまつても先祖に申し訳ないと主人の考へで一生懸命殖やして行きました。肥料は何を与えているのかと尋ねられた人もありましたが、別に何も金肥は与えず、兎に角毎年掃いてもはいても切りのない落ち葉を毎日毎日せつせと掃除して運び込み、道路側溝迄掃除して畑に入れ込みました。落ち葉の肥料のおかげで初夏になると皆さまに喜んで頂ける様美しく咲いて貰っています。

桜も移転された梶川様宅の入り口に二本の大きな八重桜がありました。が、今では枯れてしまつて跡形もなくなつています。

その曾孫根(ひこね)と申しますか芽が出ているのを移植して、大



大谷 艶子

変大きく成長し綺麗に咲いていたので。次々に曾孫根や玄孫根(やしやね)と出る芽を移植してきて五十本位に殖え、春には艶やかな姿をみせてくれていました。

しかし道路拡張工事に伴い、一番大きくなつていた元木をはじめ数本と紫陽花も十数本が犠牲になる破目になり悲しい思いを致しました。人間は便利になつても物言わぬ花木が犠牲になることは仕方ないことなのではないか。負けず咲いてくれる・皆の目を楽ませてもらえる生涯現役の花木に感謝です。

ありがとうございます。



2006年7月 市のホームページに「下佐の美しい景色」と題して大谷春夫ご夫妻の七色の虹の紫陽花ロードを紹介しました

式敷探訪

上式敷 荒木 増雄

ふるさとたんぼう
上式敷の荒木さんが高宮町史、作木村誌、広辞苑、歴史書、等を紐解きながら平成四年より式敷探訪と題して、まとめられた資料の中から荒木さんの了解を得て、珍しい地名である「式敷」の名前の由来について書かれてある部分を抜粋して下佐年報第十二号へ掲載させてもらいました。

「式敷」という地名を考察する

「式」とは儀式のことであり、「敷」とは何か敷物（こもかた）を（広く）又は（長く）敷きつめた場所、儀式的な行事があったと想像されるのであり、その行事が大変重大なことであったので語りつたえられる内に「式に敷いた」「式敷」と変化して現在の地名が生まれたのではあるまいか。では、地名として後世に残るほどの儀式的行事があったとすれば、それは、後鳥羽伝説以外には考えられないのである。

後鳥羽上皇は、承久三年（一二二二）七月隠岐の島に配流され、延応元年（一二三九）二月七日崩御されたと日本歴史は明記している。

江の川沿岸に後鳥羽伝説の謎を追う

◇承久の乱

承久三年五月、後鳥羽上皇は流鏑馬揃と称して楽南の鳥羽離宮に兵を集め、北条義時追討の院宜を発した。上皇側

の軍勢は六万、対する幕府軍は十九万で、二か月にわたる合戦は幕府側の勝利に終わり、敗れた後鳥羽・土御門・順徳の三上皇はそれぞれの地へ配流されたのである。後鳥羽上皇が「いつ」どのようにして隠岐の島を脱出され、どんな道筋を辿って当地に着輦されたのか全く不明であり、大きな謎であるが、作木史には次の如く記録している。

一二三四 天福二年九月 後鳥羽上皇 香淀着輦

一二三九 延応二年三月 後鳥羽上皇 崩御

天福二年九月、上皇は作木村香淀の上川毛まで辿り着かれたが、ご病氣のためやむなく当地に滞在されることになったと想像されるのである。

では行在所は何処にあったのであろうか、今となつては全く不明であるが、敵の追手を逃れての旅の空、しかもご病氣快癒までの仮御所故、民家にも劣るほどの侘び住まいであつたと拝察する。

しかも医療の方途の全くない辺境の地に病臥された上皇は、再起の夢も空しく江の川の瀬音を聞きながら延応元年二月七日崩御されたのである。

上皇の葬儀が何処でどのように営まれたのか記録も語り伝えもなし。



蓮照寺に保管されている後鳥羽院御座木像と御位牌

※ ゆかん岩 後鳥羽上皇の遺体を清めるために使った岩と伝えられている。式敷の川島・三島両家の中間あたり、江の川の流れる式敷寄りに平時の水面よりやや高く中くほみの大岩がありこの岩を（ゆかん岩と呼んで今日に及んでいる。

先ず葬儀には僧侶と相当広い場所が必要であり、いくら配流の身分とてさきの天皇の葬儀ともなれば寺院でいとなまれたと見るべきであろう。

作木村大山の浄円寺が川毛にあったという説もあるが、それは何時ごろであつたのか記録も証拠となるなにもなく、寺跡らしい基壇すら見ることが出来ないのである。

蓮照寺が現在地に移築されるまでは和佐田にあり、蓮華寺と称していたことは確かであり開基は古く「経塚」を有する格式高い寺院であつた。（四百三十年前、毛利隆元が出雲遠征のためこの寺に滞在将兵を集結中病死したことはあまりにも有名である）当時の状況より判断すれば上皇の葬儀はやはりこの蓮華寺で営まれたと判断すべきであろう。

さて現在「尊儀」の碑の建つていり辺りにあつたと思われる行在所において、崩御された上皇のご遺体は、すぐ近くにある渡し場より川船で「湯灌岩」まで下り、ゆかんとすませて式敷に上陸しそれより行列を組み、蓮華寺に向かつて行進したのであるが、その道筋には菰や筵が敷きつめられたので、次第に式敷という地名が生まれてきたものと思われるのである。（ちなみにそれまでは和佐田とか名倉とか七谷などの小字名で呼ばれていたと想像するのである）

それにしても、当地としては空前絶後の大事件であつた蓮華寺での葬儀には近郷近在より多くの人達が参集し、上皇を悼み別れを惜しんだことである。



カメムシの冬籠り 持丸 節子

「ぶくん」おい今日はなんだかさむいの〜「ぶくん」ぶくん「さむいさむい」冬のはじまりです。十一月のはじめカメムシ達は冷たい雪が降りだすまえ、それぞれの冬籠り先へ一斉に集結するのです。

カメムシは山裾に自生する蔓の樹液を吸い脱皮を繰り返しながら成長し、敵の襲来には独特の臭いを発しながら身を守っています。毎年冬の始まりには、年中行事のように我が家ではカメムシ取りが始まります。

カメムシはあらゆる家の隙間から、そろそろそろり家の中に侵入してきます。家の周りをぐるぐる回つて年によつては千数匹のカメムシが集まります。下に封筒を受け、止っているカメムシをちよつとつくとポロッと封筒に落ち込みます。

お正月になると、四人の孫達が雪遊びを楽しみに泊まりにきて「ゆきんごだ」「ゆきんごだ」嬉しそうに雪だるまや雪のへりを楽しんでいます。「キヤ」「おぼくちゃん、はやくきて〜虫・虫がいるよ〜」家の中へ侵入したカメムシが布団の中へじーと潜んでいたのです。おぼくは、慣れた手つきでカメを掴んで封筒の中へポン。「やれやれや」と捕まらずに隠れつつたのびに「捕まつてしまつた」「暖かい布団の中で春まで冬籠りしようと思つたのに、封筒に入れられ、窮屈じやの〜」

「おまえも捕まつたんかい」「やれやれせまいの〜」寒い冬とはいえ、たまには暖かい日差しがある日がやってきます。中国地方一番の大きな江川が流れるこの地域は雪の降り出すのは一番遅いのです。その川辺に大きくポカッと穴のあいた岩があり辺りには人家もなく日当たりもよい秘密場所があるのです。「カメちゃん春までここで生きてよ」封筒の中のカメムシをほかほかのお日様の当たる洞窟へばらばらとお引越しをさせるのでした。「ここはここじゃ」「さつきめまいがしたが、なんか急に辺りがひろくなつたで」「カメムシはそろそろそれぞれ隠れ場所へ移動し、体を寄せ合つたり、落ち葉の間へ身を寄せたりしてこの岩を春までの住み家とするのでした。

原稿をお寄せ頂きました方、編集にご協力頂きました方々に感謝申し上げます。
あしがとつていびいびい。編集委員一同